

実践事例 第5学年 小单元名『工業地域と工業生産』

小单元の目標

- 我が国の工業を支えている中小工場の特色、大工場や中小工場が集まっている主な工業地域の分布、工業生産を支える運輸のしくみなどについて理解し、調べたことをもとに考え、自分の考えを表現する。
- 我が国の工業の現状や特色について、各種の写真・地図・分布図や統計資料を活用してとらえ、ノートに分かりやすくまとめて表現し、発表する。

単元の評価規準

社会的事象への関心・態度・意欲	社会的な思考・判断	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
工業のさかんな地域について関心をもち、その工業の特色や、工業がさかんなわけを様々な視点から調べようとする。	日本の主な工場は、海外との輸出入の関係から海沿いに広がっていることや、専門技術をもっている中小の工場の活躍などを考える。	我が国の工業の特色について、分布図・帯グラフなどの資料を読み取り、表現する。	我が国は、重化学工業が多く、海沿いや高速道路沿いに工業のさかんな地域が集まっているという工業の特色について理解している。

単元の評価計画

学習内容	評価規準			
	社会的事象への関心・態度・意欲	社会的な思考・判断	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1 つかむ ・町工場の特色と大工場との関係、つながりについて	○中小工場の生産の仕組みや、そこで働く人々の話や作業の様子などから、働く人々の工夫や努力についてとらえようとしている。	○中小工場の役割には、大工場の関連工場のほか、専門の技術を生かした特殊な工業製品を生産するなどの特色があることを考える。	○地図や帯グラフ・円グラフ、写真などの資料から我が国の中小工場の特色や工業がさかんな地域などの様子、国内の運輸の状況などを読み取る。	○工場の規模による生産性の違いや専門技術をもっている中小の工場の働きについて理解している。
2 調べる 3 生かす ・工業地帯、工業地域の様子や特色、運輸との結びつき	○我が国の工業地域の分布や、運輸の働きについてすすんで調べようとしている。	○工業地域が海沿いに多いことに気づき、そのわけを、原料の確保、製品の輸出等と結びつけて考える。	○地図やグラフから必要なことを読み取り、そこから自分が考えたことを分かりやすくまとめる。	○日本の主な工場地域は、海沿いや交通の便利な所に広がっていることを理解している。

小单元における読解力育成の工夫

社会事象に疑問を持ち、調べようとする意欲をもたせる資料提示を工夫する
調べたことを根拠にして自分の考えをもつことができるための指導を工夫する。
児童の力に応じた問題解決のための資料活用を工夫する。
資料活用技能の学年系統図を作成し、それを活用した授業展開を行う。

小单元の流れ

(5 時間扱い)

読解力育成のポイント

1 つかむ (2 時間)

- 「北嶋絞製作所」のへら絞りの技術に関するビデオを見て、感想や、気付いたことを話し合う。
- 北嶋さんの背景と手元にある円盤の写真から製品の共通点を見つけ、絞りの技術を読み取る。
- 中小工場の働きをおさえる。
- 北嶋絞製作所がある大田区の「空から見た京浜島」写真と説明から、大田区は東京都の中でもっとも工場が多い地域であり、埋め立て地にあることを知る。
- 大田区や日本の業種別工場数や従業員数別工場数のグラフを見て気付いたことをもとに、大田区の特色や日本全体との相違などについて調べ、整理する。
- 資料集「中小工場と大工場」のグラフをもとに、工場数、働く人の人数、出荷額（生産額）の違いを読み取り、まとめる。
- VHS テープの続きを見て社説形式で自分の意見をまとめる。

2 調べる (2 時間)

- 大田区の近くの航空写真（横浜市、川崎市）を見て、気付いたこと、分かったことを発表する。
- 地図を活用して、大田区のまわりにどんな種類の工場が、どのような場所にあるのかを調べる。
- 調べた結果を発表し合い、その結果から、わかることを考える。
- 工業がさかんな地域について話し合う。
- 資料を見て調べ、気付いたことや調べたことを発表し、黒板に掲示した白地図を埋めながら、整理していく。

導入で教科書に登場する北嶋絞製作所のへら絞りの技術に関する VHS テープ「夢をつむぐ人々～ 0.01 mm を手にした男へら絞り職人」を視聴し、話し合うことで、中小工場の専門技術の高さや、特色、働く人の思いが実感できるようにする。

毎時間パワーポイントを活用し、写真や地図、グラフ等具体的な資料から、分かりやすく事象を読み取れるよう工夫する。

グラフの見方は技術を教えるだけでなく、2 つ以上の情報を比較したり、関連事項を探したりする視点も与える。

ノートや新聞にまとめる際に、調べたことを写したり、まとめたりするだけでなく、その調べたことから気付いたこと、それをもとに考えたことを「社説」として最後に必ず書くようにしていく。

地図に直接書き込む形式のワークシートや掲示用の地図記号のカードを作成して、視覚的にも調べる内容が分かりやすくなる工夫をし、読み取りやすくすることで、調べる意欲の向上を図る。



- 工業のさかんな地域は、どうして海沿いに多いのか、地図帳や資料集などの資料を活用して調べる。
- 工業の種類と特徴をグラフをもとに調べ、確認する。
- 日本の工業の特徴を考え、話し合う。

3 生かす（1時間）

- 京浜トラックターミナルの写真から、感じたことを話し合う。
- 地図やグラフを読み取り、気付いたことを発表し、そこから分かることを確認する。
- 京浜トラックターミナルのしくみを調べる。
- 調べたことから大田区と国内外の結び付きについて考える。
- 自動車は船で運ぶところから海とのつながりを考え、最大の運輸は船であることに気が付く。

地図ワークシートで作業する際に段階的に地図の見方を振り返る。

作業が困難な児童に対しては、地図記号をもとにした絵カードを用意して、1種類ずつ調べられるように支援する。

作業を隣同士で相談させながら進めたり、班で結果を見合って話し合ったりする中で、考え方を交流するなどの授業展開を工夫する。

本単元では地図帳、地図資料の活用技能を重点化し、「社会科における基礎的事項・地図に関わる学年系統図」を作成、5年生に必要な活用技能を把握した上で、事前に地図活用に対する意識と技能を調査するアンケートを行い、その結果を分析して小単元計画を立てる。

本時の目標

東京湾を事例に工場が集まっている地域の様子や工業地帯（地域）の特色について写真や地図帳を活用して調べ、理解を深めることができる。

本時の読解力育成の工夫

社会事象に疑問を持ち、調べようとする意欲をもたせるための資料提示を工夫する。
調べたことを根拠にして自分の考えをもつための指導を工夫する。
児童の力に応じた問題解決のための資料活用を工夫する。

使用する資料（教具・教材）

- ・写真「空から見た京浜島」
 - ・地図帳
 - ・プレゼンソフト地図帳の使用法説明
 - ・工業製品を表す地図記号のカード
 - ・ワークシート
- （地図をもとに書き込めるようにしたもの）

主な学習活動・内容	指導上の留意点・評価	読解力育成のポイント
我が国の工業はどのように広がり、どのような特色があるでしょうか。		
1 前時までの学習内容をふりかえる。 ・大田区の場所 ・大田区の工業生産の特色 2 「大田区の近くの様子」の写真を見て気付いたことを発表し、学習問題をつくる。 ・写真の読み取り方 ・海の近くであること ・工場の数が多く、集まっていること ・大小の色々な工場があること ・海岸線がまっすぐ＝埋め立て地だということ ・港や船が見えること ・写真の上下部分にさらに工場が続いていそうということ 3 地図帳の使い方と調べ方を確認する。 ・さくいんの引き方 ・地図での見つけ方	○ 本時の地域の広がりを実感させるために、地図で大田区の位置を確認する。 ○ 働く人の工夫・努力も想起する。 ○ 写真資料から必要なことを読み取り、調べ活動を行っている。発言 ○ 写真から工業に関わる気付きを促し、大田区の隣接地域から「大田区のまわり＝東京湾周辺部」ではどうなっているのかに目を向けさせる。 ○ 例をあげて説明し、全員が確実に作業を理解できるようにする。	○ 写真の読み取り方に従って話することができるように助言する。 ○ 見ただけでは分からない情報を与える。 製鉄所、石油タンク、色々な工場（家電・ガラス）、大きな道路と橋、船と運河  工業製品記号 - 製鉄所 - 機械工業 - 石油化学工業 - 食料品工業 - IC工場 - 自動車 - 事務用機器 - 電化製品 - 工作機械 - 船 - 化学製品 ○ 「工業製品記号」を紹介し、「工業」の内容を確認して、他の記号と区別できるようにする。

・工業製品を表す地図記号 4 大田区のまわりについて、どんな種類の工場がどのような場所にあるのか地図帳を使って調べ、ワークシートに書き込む。 ・工業製品に○を付ける ・工業製品と、それ以外のものを見分けながら書き込む。 5 班で、結果から分かったことについて話し合い、ホワイトボードにまとめる。 6 調べた結果を発表し、全員で確かめる。 7 工業の種類と場所についての特徴をまとめ、新しい用語を知る。 8 わかったことをもとに、さらに調べてみたいことを確認する。	○地図帳で調べ、ワークシートにまとめる作業を通して、「どこに」「何の工業製品をつくる工場」があるのか気付かせる。 資 地図資料から必要なことを読み取り、調べ活動を行っている。 作業用ワークシート 関 工場が集まっている地域の様子について写真や地図帳から、進んで調べる。 発表・作業 思 調べたことを根拠にして話し合い、東京湾沿いにいろいろな種類の工業や工場が集中して集まっていることに気付いている。 発言、ホワイトボード ○作業中に迷ったところや、全体で確認したいことを取り上げ説明する。 ○児童の言葉を生かして、板書・説明する。 ○京浜工業地帯と京葉工業地域の範囲をとらえられるように、自分のワークシートで範囲を囲ませる。 ○ワークシート上で囲まれた範囲に注目させ、調べた結果分かったことから、工業地帯と工業地域の用語をおさえる。 ○ワークシートを集め、次の支援に生かす。	○「さくいん」「地図記号」に触れながら地図の見方を確認する。 ○地図の見方や地図記号から情報を読み取る方法を丁寧に指導する。 ○作業、理解の困難な児童に対しては、数種類の工業の地図記号カードを用意し、その工業中心に調べさせる。 ○作業で作成した地図に結果が出ていることを伝え、班ごとに話し合わせることで気付くようにする。 ○調べた結果から分かったことについて箇条書きさせる。  ○課題に対する予想を持たせ、学習への意欲を継続できるようにする。
---	--	---

実践を終えての考察

社会事象に疑問をもち、調べようとする意欲をもたせるために資料提示を工夫する。

[調査研究の視点(1) -]

導入で教科書に登場する北嶋絞製作所のへら絞りの技術に関する VHS テープ「夢をつむぐ人々～ 0.01 mmを手にした男へら絞り職人」を視聴し、話し合うことで、中小工場の専門技術の高さや、特色、働く人の思いが実感できるようにした。長い経験で培われた技術は、実際に映像で見ないとそのよさが伝わりにくい。抽象的な内容が多いこの小单元の中で具体的な問題意識を児童にもたせるために本資料を提示した。工業生産に従事している人々の工夫や努力とともに、製品にかける強い思いも読み取ることができた。

プレゼンテーションソフトを活用して、写真や地図等具体的な資料から、わかりやすく事象を読み取れるように工夫したことで、個人で読み取ったことを全体の場で素早く伝えることもできた。よりよい資料の読み取り方をクラスで共有できるという点でも有効であった。

地図に直接書き込む形式のワークシートや掲示用の地図記号のカードを作成して、視覚的にも調べる内容が分かりやすくなる工夫をし、調べやすくすることで、調べる意欲の向上を図った。地図に直接書き込むことで、白地図を使用するよりも地図からの情報を読み取る視点、技術に向上が見られた。



調べたことを根拠にして自分の考えをもつための指導を工夫する。

[調査研究の視点(2) -]

東京湾周辺の工業の様子を調べた作業用の地図ワークシートをもとに、そこからわかること、読み取れることを考える。まず、調べた結果から、個人で読み取れることを地図プリントに書いた。次に班で結果からわかったことについて話し合い、ホワイトボードにまとめることで一人一人が、自分の考えを表現できる場面を増やした。そのことにより、思いつきや、事前に持っていた知識だけで意見を発表するのではなく、資料を根拠にした意見を述べることができるようになってきた。

- ・ 東京湾のまわり、特に東京と神奈川のあたりにたくさん工場がある。
- ・ せい油の工場が多い
- ・ 低地には工場が多い

児童の力に応じた問題解決のための資料活用を工夫する。

[調査研究の視点(1) -]

地図ワークシートで作業する際に、段階的に地図の見方を振り返ることをこころがけ、前学年までに身に付いていない事項に対しても確認をし、地図資料から情報を読み取れるよう指導した。

作業が困難な児童に対しては、地図記号をもとにした絵カードを用意して、1種類ずつ調べられるように支援した。その結果、自分の力で地図から情報を引き出せるようになった。

作業を隣同士で相談させながら進めたり、班で結果を見合って話し合う中で考え方を交流したりするなどの授業展開で、理解の速い児童や視点をしっかりもっている児童の考え方や方法も共有していった。このことでよりよい資料の読み取り方や考え方を、具体的に学ぶことができた。

資料活用技能の学年系統図を作成し、それを活用した授業展開を行う。

[調査研究の視点(1) -]

本時において資料の中心になる地図帳、地図資料の活用技能を重点化し、「社会科における基礎的事項・地図に関わる学年系統図」を作成した。その上で、5年生に必要な活用技能を把握した上で、事前に地図活用に対する意識と技能を調査するアンケートを行い、まだ十分に身に付いていない力を身に付けさせることを意識して小単元計画を立てた。このことで、当該学年での地図資料の読み取りに必要な技能や、獲得しなくてはならない技能などが一目で分かるようになり、教師・児童ともに技能的な面でも明確な目標をもって学習に取り組めるようになった。

社会科における基礎的事項

3 年	4 年	5 年	6 年
● 白地図で場所を表すことができる。 ● 白地図に道順を書き込むことができる。 ● 方位磁針で北を確かめ、地図の方位が合っていることを確認できる。 ● 絵地図と景色を見比べて、目印になる場所を探ることができる。 ● 今いる場所を地図で見つけることができる。 ● 道沿いにあるものを地図に書き込むことができる。 ● 分かりやすい地図の作り方が理解できている。 (・土地利用ごとに同じ地図記号にする ・距離のものをさし書き込む。 ・町目印になる建物や地蔵を地図に入れる。) ● 市図をつくる手順を知っている。 (市形 → 高低差の色 → 川 → 鉄道や道路 → わかったこと・写真・資料)	● 地図帳の索引を活用できる。 (五十音順の検索、都市のある都道府県の記載、掲載ページ、図番号、経線・緯線の間を表す記号) ● 等高線の見方を理解できている。 (高さ・傾斜) ● 地勢図を読み取ることができる。 (土地の高さ) ● 縮尺の意味を理解できている。 ● 土地利用図を読み取ることができる。 (・土地利用ごとに着色されている ・地形と土地利用の関係が読み取れる) ● 地域の歴史マップをつくることができる。 (白地図 → 目印になる地図記号 → 祭りや文化財のあるところ → 方位記号の順に書いていく)	● 土地利用図を読み取ることができる。 (何に利用されているかを多角的に見る。土の場所と交通の場と → 地域の土地の特色をまとめる) ● 主題図を読み取ることができる。 (・地図のタイトル ・地図中の数字が表すもの ・全体的に言えること ・地図と数字との関連はないか) ● 緯度と経度で位置を調べたりできる。 ● 地図を比較するときは、縮尺や方位が正確であることを確かめる。 ● 調べたい場所を地図から探すことができる。 (自分が見ている場所の目印を地図に上る → 方位を確かめる → 主な橋・駅・主要な道路・目的地を確認する → 目的地まで行く) ● 調べたいところを地図で調べる。	● 分布図を読み取る方法を知る。 (どの地域にどれくらいいるのかを調べる。年表や地図を調べる。) ● 年表や地図を調べる方法を知る。 (年表や地図を調べる。年表や地図を調べる。)
各学年で取り上げられている地図	各学年で取り上げられている地図	各学年で取り上げられている地図	各学年で取り上げられている地図
鳥瞰図 白地図 方位・地図記号・縮尺 市の地図	位置図 索引 等高線 歴史マップ 地勢図・鳥瞰図 土地利用図 5万分の1の地図	日本の気候・地形・産業マップ 漁港の生産額・主題図 高速道路網・主題図 世界と結ぶ放送局 国境図 国土の衛星写真 エコマップ作成	源平の戦い 日本町 伊能忠敬 宇宙から見た列島 米・韓の地図 青年海外協力隊の派遣 国分布図

社会 - 34 -